

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(2月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2009年) 2
- ◆米国工作機械貿易統計(2月) 3
- ◆中国工作機械輸出入統計(2009年) 3

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国：製造業設備稼働率は若干減少(2月) ... 4
- ◆米国：製造業部門、8ヵ月連続で成長
(3月) 4
- ◆独機械業界、1月受注は3%減に 5
- ◆スペイン工作機械業界、2009年生産高は
前年比27.8%減 5
- ◆欧州：EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)
と資本財生産月次推移(3月) 6
- ◆インド：ドイツの工作機械業界にとって
潜在性豊かなインド市場 6
- ◆中国：工作機械産業、国産化率が70%に 6
- ◆中国：設備製造業第一四半期の景況感が
改善 6
- ◆中国：一般工作機械輸出が大幅増
(遼寧省) 7

3. 工作機械関連企業動向

- ◆米国：Hardinge社、J&S社を買収 7
- ◆米国：Hardinge社、2009年第4四半期
および通年の決算を発表 7
- ◆スイス：大幅減収、赤字幅拡大のMikron社
2009年決算 8
- ◆ドイツ：Chiron社、AMB2010向け出展を
準備 8
- ◆独工作機械メーカーのHermle、2009年は
最収益9割減 8

4. その他

- ◆ユーザー関連トピックス 9

5. 日工会外需状況(3月) 13

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(2月)

AMT(米国製造技術工業協会)及びAMTDA(米国工作機械販売協会)発表の受注統計(USMTC)によると、2010年2月の米国切削型工作機械受注は、1億5,572万ドルで前月比30.6%増、前年同月比44.5%増となった。

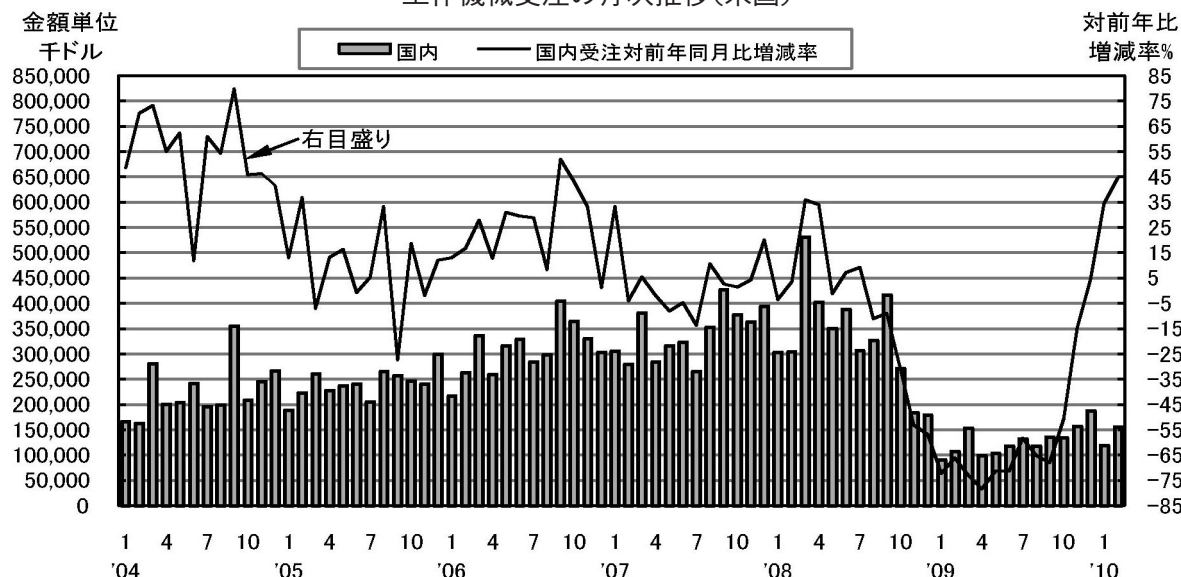
AMTのWoods専務理事は「製造業受注は2010年2月までの累計で22%増加(成形型含む)し、産業界で最悪であった一年からゆっくりと回復している。銀行が貸し付け制限を緩めれば、この回復は2倍になるであろう。資金が国の再建のために使われるとするなら、我が国の銀行はGDPの10倍の資金を持っており、連邦預金には法定準備金の24倍の預託金がある。」と述べた。(USMTCレポート 4月12日付)

米国工作機械(切削型)受注統計

(金額単位：千ドル)

年 月	受 注	
	台 数	金 額
2009年 1月	694	91,390
2月	780	107,769
3月	963	153,364
4月	855	99,162
5月	814	103,608
6月	853	117,771
7月	907	131,996
8月	806	117,583
9月	920	136,133
10月	993	134,932
11月	957	156,807
12月	1,226	187,293
2009年累計	10,768	1,537,808
2010年 1月	769	119,267
2月	899	155,716
2010年累計	1,668	274,983

工作機械受注の月次推移(米国)



◆米国工作機械受注統計(地域別)

(単位：百万ドル)

地 域 別		2010年2月 (P)	2010年1月	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2010年累計 (P)	2009年累計 (R)	前年同期比 (%)
全 米	切 削 型	155.72	119.27	30.6	107.77	44.5	274.98	199.16	38.1
	成 形 型	8.24	8.05	2.3	26.57	-69.0	16.29	38.95	-58.2
	計	163.96	127.32	28.8	134.34	22.1	291.27	238.11	22.3
北 東 部	切 削 型	24.72	23.96	3.1	22.79	8.5	48.68	39.74	22.5
	成 形 型	1.92	1.15	67.3	4.72	-59.3	3.06	7.46	-58.9
	計	26.64	25.11	6.1	27.50	-3.1	51.75	47.20	9.6
南 部	切 削 型	18.13	26.77	-32.3	18.09	0.3	44.91	29.94	50.0
	成 形 型	0.86	1.65	-47.7	3.25	-73.5	2.51	5.95	-57.8
	計	19.00	28.42	-33.2	21.34	-11.0	47.42	35.90	32.1
中 西 部	切 削 型	40.74	34.05	19.6	29.66	37.4	74.79	54.38	37.5
	成 形 型	2.32	1.91	21.3	9.85	-76.5	4.23	13.64	-69.0
	計	43.06	35.96	19.7	39.51	9.0	79.02	68.03	16.2
中 部	切 削 型	50.26	23.43	114.5	24.53	104.9	73.69	48.92	50.6
	成 形 型	2.94	2.89	1.6	5.59	-47.5	5.82	6.77	-14.0
	計	53.20	26.32	102.1	30.12	76.6	79.52	55.69	42.8
西 部	切 削 型	21.86	11.04	98.0	12.71	72.0	32.91	26.17	25.8
	成 形 型	0.21	0.46	-54.9	3.16	-93.5	0.66	5.13	-87.1
	計	22.07	11.50	91.9	15.87	39.1	33.57	31.29	7.3

P：暫定値 R：改定値

四捨五入により合計値及び%は一致しない場合がある。

出所：USMTC

◆台湾工作機械輸出入統計(2009年)

台湾工作機械機種別輸出入統計(2009年)

(単位：千USドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2009年	2008年	前年比(%)	2009年	2008年	前年比(%)
放電加工機	77,380	154,420	-49.9	104,916	1,111,447	-90.6
マシニングセンタ	473,457	1,203,647	-60.7	25,314	58,948	-57.1
旋盤	389,332	856,806	-54.6	41,071	80,704	-49.1
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	197,443	369,800	-46.6	17,856	40,759	-56.2
研削盤	87,866	192,352	-54.3	54,160	93,308	-42.0
歯切り盤・歯車機械	98,646	187,455	-47.4	29,228	42,599	-31.4
切 削 型 合 計	1,324,124	2,964,480	-55.3	272,545	1,427,765	-80.9

出所：海関進出口統計月報

台湾工作機械国別輸出入統計(2009年)

(単位：千USドル)

輸 出					輸 入				
順 位	国 別	2009年	2008年	前年比(%)	順 位	国 別	2009年	2008年	前年比(%)
1	中国・香港	651,221	1,114,649	-41.6	1	日 本	167,127	931,400	-82.1
2	米 国	124,830	338,604	-63.1	2	ド イ ツ	46,473	101,973	-54.4
3	ド イ ツ	75,589	224,097	-66.3	3	中国・香港	24,380	41,079	-40.7
4	タ イ	68,231	112,308	-39.2	4	イ タ リ ア	19,871	15,007	32.4
5	ブラジル	65,247	157,876	-58.7	5	ス イ ス	19,731	30,638	-35.6
6	インド	59,470	118,958	-50.0	6	米 国	18,856	299,738	-93.7
7	ベトナム	59,095	88,813	-33.5	7	韓 国	18,317	31,873	-42.5
	そ の 他	639,602	1,565,750	-59.2		そ の 他	26,050	84,027	-69.0
	合 計	1,743,285	3,721,055	-53.2		合 計	340,805	1,533,735	-77.8

出所：海関進出口統計月報

◆米国工作機械貿易統計(2月)

- 2010年2月の米国工作機械輸出額(切削型)は、前月比29.8%増の107.2百万ドルであった。

2010年1～2月の輸出累計は、前年同期比3.8%増で、189.8百万ドルであった。

- 2010年2月の米国工作機械輸入額(切削型)は、前月比1.8%減で119.3百万ドルであった。

2010年1～2月の輸入累計は、前年同期比37.7%減で240.7百万ドルであった。

		2010年 2 月	2009年 1 月	2月/1月 増減率 (%)	2010年 1～2月	2009年 1～2月	前年比 増減率 (%)
切削型	輸 出	107.2	82.6	29.8	189.8	182.9	3.8
	輸 入	119.3	121.5	(1.8)	240.7	386.2	(37.7)
	収 支	(12.0)	(38.9)	(69.0)	(50.9)	(203.2)	(74.9)
成型型	輸 出	48.4	43.4	11.7	91.8	91.9	(0.1)
	輸 入	29.4	39.7	(26.1)	69.1	129.1	(46.5)
	収 支	19.1	3.6	427.1	22.7	(37.2)	(161.0)
合 計	輸 出	155.7	126.0	23.6	281.6	274.8	2.5
	輸 入	148.6	161.2	(7.8)	309.8	515.2	(39.9)
	収 支	7.0	(35.3)	(120.0)	(28.2)	(240.4)	(88.3)
NC機	輸 出	74.6	51.1	46.0	125.7	119.0	5.6
	輸 入	99.7	97.1	2.7	196.8	339.2	(42.0)
	収 支	(25.2)	(46.0)	(45.3)	(71.2)	(220.2)	(67.7)

(注) ()はマイナスを表す。四捨五入により、合計値と一致しない場合がある。

出所：AMT－The Association for Manufacturing Technology

(AMT Report 2010年4月13日付)

◆中国工作機械輸出入統計(2009年)

中国工作機械国別輸出統計(2009年)

(単位：千USドル)

No.	国 別	合計 (切削型&成型型)			金属切削形工作機械			金属成型型工作機械		
		金 額	前年比(%)	シェア(%)	金 額	前年比(%)	シェア(%)	金 額	前年比(%)	シェア(%)
	合 計	1,411,681	-32.97	100.00	954,215	-34.48	100.00	457,467	-29.59	100.00
1	米 国	130,234	-17.86	9.23	111,893	-19.15	11.73	18,342	-9.00	4.01
2	イ ン ド	87,997	-34.21	6.23	47,546	-25.50	4.98	40,451	-42.16	8.84
3	韓 国	70,118	-8.07	4.97	59,879	-6.69	6.28	10,240	-15.40	2.24
4	ド イ ツ	66,921	-48.67	4.74	58,304	-44.75	6.11	8,617	-65.31	1.88
5	ベトナム	63,508	5.39	4.50	28,084	1.43	2.94	35,424	8.76	7.74
6	ブラジル	58,711	-48.95	4.16	37,988	-55.23	3.98	20,722	-31.27	4.53
7	日 本	48,511	-58.16	3.44	34,562	-62.87	3.62	13,949	-38.95	3.05
8	マレーシア	42,979	0.29	3.04	20,109	-20.55	2.11	22,870	30.35	5.00
9	ミャンマー	41,373	382.20	2.93	20,857	393.43	2.19	20,516	371.30	4.48
10	インドネシア	39,118	-17.51	2.77	19,620	-33.31	2.06	19,499	8.29	4.26
11	オーストラリア	37,636	-23.21	2.67	24,570	-19.27	2.57	13,066	-29.67	2.86
12	タ イ	35,521	-17.11	2.52	20,913	-28.57	2.19	14,608	7.58	3.19
13	イ ラ ン	33,942	-30.82	2.40	23,856	-27.44	2.50	10,086	-37.68	2.20
14	ロ シ ア	33,069	-65.59	2.34	22,783	-63.92	2.39	10,285	-68.78	2.25
15	香 港	32,598	-71.54	2.31	26,274	-74.16	2.75	6,325	-50.83	1.38
16	メキシコ	30,619	-17.88	2.17	21,277	-9.39	2.23	9,342	-32.32	2.04
17	アラブ首長国	30,272	-8.62	2.14	17,914	7.08	1.88	12,358	-24.64	2.70
18	英 国	29,160	-4.62	2.07	24,112	3.12	2.53	5,048	-29.79	1.10
19	イ タ リ ア	27,829	-41.92	1.97	19,189	-43.68	2.01	8,640	-37.58	1.89
20	ト ル コ	23,491	-58.38	1.66	16,839	-53.64	1.76	6,652	-66.94	1.45
	そ の 他	448,075		31.74	297,647		31.19	150,428		32.88

出所：CMTBA 数字は全て原文のまま掲載。

中国工作機械国別輸入統計(2009年)

(単位：千USドル)

No.	国 別	合計 (切削型&成型型)			金属切削形工作機械			金属成型型工作機械		
		金 額	前年比(%)	シェア(%)	金 額	前年比(%)	シェア(%)	金 額	前年比(%)	シェア(%)
	合 計	5,896,976	-22.28	100.00	4,558,951	-19.68	100.00	1,338,025	-30.01	100.00
1	ド イ ツ	1,638,711	5.35	27.79	1,314,967	11.00	28.84	323,743	-12.68	24.20
2	日 本	1,597,178	-36.06	27.08	1,243,134	-36.56	27.27	354,044	-34.27	26.46
3	台 湾	648,997	-45.86	11.01	477,937	-40.58	10.48	171,060	-56.63	12.78
4	韓 国	493,477	-12.10	8.37	355,500	-8.15	7.80	137,977	-20.85	10.31
5	イ タ リ ア	440,554	3.80	7.47	337,760	12.68	7.41	102,794	-17.53	7.68
6	ス イ ス	258,667	-10.29	4.39	230,570	-10.83	5.06	28,097	-5.59	2.10
7	英 国	225,685	-38.92	3.83	164,117	-43.30	3.60	61,568	-23.06	4.60
8	オーストリア	107,363	75.22	1.82	84,152	90.37	1.85	23,211	35.97	1.73
9	フ ラ ン ス	83,130	3.89	1.41	55,296	16.81	1.21	27,834	-14.84	2.08
10	ス ペ イ ン	82,561	9.05	1.40	71,740	28.20	1.57	10,821	-45.20	0.81
11	英 国	51,591	15.75	0.87	43,340	26.67	0.95	8,250	-20.32	0.62
12	ス ェ ー デ ン	36,049	28.79	0.61	20,113	71.52	0.44	15,936	-2.02	1.19
13	チ ェ コ	35,874	52.50	0.61	35,775	62.44	0.78	99	-93.39	0.01
14	ベルギー	30,551	-26.48	0.52	7,328	-77.88	0.16	23,223	175.69	1.74
15	シンガポール	28,669	-67.89	0.49	25,697	-68.08	0.56	2,972	-66.20	0.22
16	オーストラリア	19,192	-20.67	0.33	18,080	-11.52	0.40	1,112	-70.42	0.08
17	中 国	17,770	-69.33	0.30	13,743	-71.75	0.30	4,027	-56.65	0.30
18	ブ ラ ジ ル	17,003	-12.63	0.29	13,458	-0.80	0.30	3,546	-39.84	0.26
19	タ イ	15,282	-51.90	0.26	14,298	-54.44	0.31	984	152.55	0.07
20	フィンランド	13,125	-3.96	0.22	949	-26.28	0.02	12,177	-1.64	0.91
	そ の 他	55,548		0.94	30,997		0.68	24,551		1.83

出所：CMTBA 数字は全て原文のまま掲載。

2. 主要国・地域経済動向

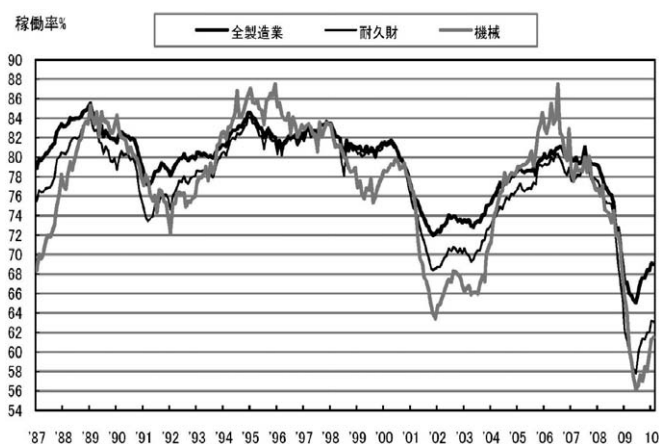
◆米国：製造業設備稼働率は若干減少(2月)

2010年2月の設備稼働率(速報値)は、全製造業で69.0%、耐久財製造業で63.1%、機械製造業で61.5%となった。

前月比で見ると、機械製造業では0.2ポイント増加したものの、全製造業と耐久財製造業では0.1ポイント減少している。

一方、前年同月比で見ると全製造業では1.9ポイント増加している。

米国製造業の設備稼働率月次推移



(FRB Statistical Release G.17(419)/3月15日付)

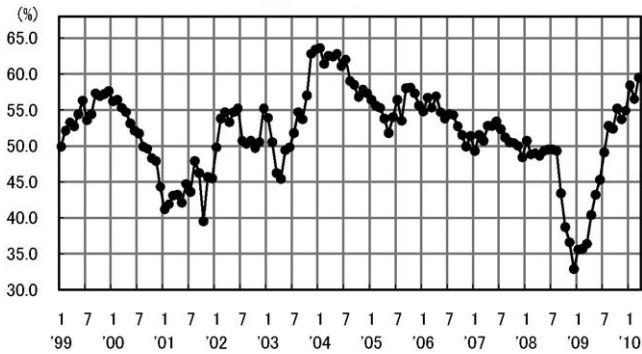
◆米国：製造業部門、8ヵ月連続で成長(3月)

米サプライ・マネジメント協会(ISM)の購買管理指数(PMI：製造業350社以上のアンケート調査に基づく月次景況指数)によると、2010年3月のISM指数(PMI)は59.6%と景況感の分かれ目である50%を上回り、製造業部門の活動も8ヵ月連続で成長した。一方、経済全体の動向はPMIが上昇・下降の分岐点41.2%を11ヵ月連続で上回り、経済成長を遂げた。

3月の調査結果について、ISMは次のようにコメントしている。「製造業部門は3月に8ヵ月連続で成長した。その成長のテンポは2004年7月以降最速である。新規受注と生産の両方とも3月に60%を上回り、勢いがある」

なお、3月の製造業の景況感について、対象18業種中、次の17業種が「企業活動を拡大した」と回答している。アパレル・皮革製品、繊維製品、電気機器・家電製品・部品、雑貨、輸送用機械、機械類、コンピューター・電子製品、紙製品、石油・石炭製品、食品・飲料・たばこ製品、家具類、非金属鉱産物、金属製品、木材製品、印刷・関連サービス、化学製品、鉄鋼・非鉄金属。

ISM 指数の推移



ISMが発表した3月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項 目	2010年 3月指数	2010年 2月指数	備 考
I S M 指 数 (PMI)	59.6	56.5	2月比3.1ポイント上昇。製造業は8ヵ月連続成長。3月のPMI (59.6%) は年率換算実質GDP成長率5.9%に相当。
生 産	61.1	58.4	2月比2.7ポイント上昇。拡大の基準である50.4%を10ヵ月連続で上回った。12業種が成長を報告した。
新 規 受 注	61.5	59.5	2月比2ポイント上昇。9ヵ月連続で増加した。13業種が成長を報告した。
受 注 残 高 (季節調整なし)	58.0	61.0	前月比3ポイント低下。10業種が増加を報告した。
サプライヤー納期	64.9	61.1	2月比3.8ポイント上昇。14業種が長期化を報告した。
在 庫	55.3	47.3	前月比8ポイント上昇。10業種が在庫増を報告した。
雇 用	55.1	56.1	2月比1ポイント低下。13業種が増加を報告した。
仕 入 れ 価 格	75.0	67.0	前月比8ポイント上昇。17業種が上昇を報告した。
輸 出 受 注	61.5	56.5	前月比5ポイント上昇。9ヵ月連続の増加。10業種が増加を報告。
原 材 料 輸 入	57.0	56.0	前月比1ポイント上昇。7ヵ月連続の増加。8業種が増加を報告した。

(ISM Manufacturing Report on Business 2010年4月1日付)

◆独機械業界、1月受注は3%減に

ドイツ機械工業連盟 (VDMA) が4日発表した2010年1月の加盟企業の受注高は前年同月比で実質3%減少した。国外受注が6%増加したものの、国内が同17%減少し足を強く引っ張った格好。前月の09年12月は受注がプラス8%となり、15ヵ月

ぶりに増加に転じていた。VDMA のヴィーハース主任エコノミストは、「谷からはい上がるには時間がかかる」との見方を示した。

大型受注などによる統計上のブレが少ない3ヵ月単位の比較をみても、09年11月～10年1月の受注高は前年同期比マイナス3%と振るわなかった。国外受注は2%増加したものの、国内が10%減少。トータルでマイナスとなった。

ヴィーハース主任エコノミストが機械業界専門サイト「MM マシーネンマルクト」に語ったところによると、受注が不振だったのは経済・金融危機の影響が比較的遅く到来した業種で、タービンや農業機械、エレベーター、エスカレーターが該当する。一方、危機の直撃を早い時点で受けた繊維・革機械、樹脂・ゴム機械などの業種では受注が大幅に回復している。駆動装置や油圧・空気圧・水圧機器も上向いたという。

(Press Release 2010年3月4日付)

◆スペイン工作機械業界、2009年生産高は前年比27.8%減

スペイン工作機械製造業者協会 (AFM) がこのほど発表した2009年の加盟企業による生産高は前年比27.8%減の7億6,250万ユーロとなり、過去10年間で最低水準を記録した。世界的な経済不況による設備投資の冷え込みが打撃となった。輸出額は5億7,520万ユーロで、前年から21.8%減少したものの、輸出比率は75%の高水準を維持した。

輸出先ではドイツが全体の25%を占め首位。次いで、フランス、イタリア、インド、中国、ロシアの順となった。

輸入額は前年比54.5%減の2億1,500万ユーロとなり、大幅に落ち込んだ。

AFMは2010年の見通しについて、「国内を含めた欧州や北米市場よりも中国、インドなど新興国市場が牽引するだろう」としながらも、「本格的な需要回復の兆しは下期以降になる」との見方を示した。

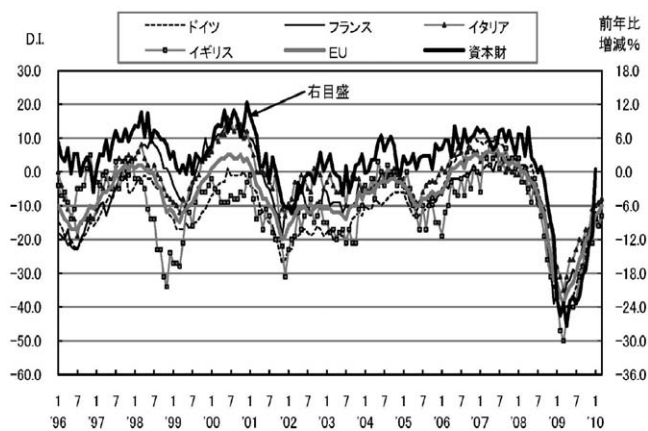
(MaschinenMarkt 2010年3月12日付)

◆欧州：EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)と資本財生産月次推移(3月)

欧州委員会の発表した2010年3月のEU主要国製造業景気動向指数(D.I.)によると、EU全体では2ポイント上昇している。国別では、ドイツとフランスが4ポイント、イギリスが3ポイント、イタリアが1ポイント夫々上昇している。

一方、ユーロ圏の資本財生産については、2010年1月は前年同月比で0.5%増となった。なお、2010年2及び3月の数字は未発表である。

EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)と資本財生産月次推移



(欧州委員会 Monthly Survey of Manufacturing Industry 及び Industrial Production 調査)

◆インド：ドイツの工作機械業界にとって潜在的豊かなインド市場

ドイツの工作機械業界は、インド市場に大きな期待を引き続き寄せている。ドイツ工作機械工業会(VDW)はインド・ドイツ商工会議所と共同で3月18～19日にチェンナイで、23～24日にプーネにおいて2日間の技術シンポジウムを開催している。シンポジウム開催はこれが3度目である。

ドイツの大手工作機械メーカー19社が最新の工業生産に向けた製品、ソリューション、サービスなどのプレゼンテーションを行った。

チェンナイでのプレゼンでは、自動車/サプライ業界と一般エンジニアリング企業などクライアント企業およそ320社が招待に応じ、プーネでは約360社が参加した。

「インド経済は過去数年間、急成長している」とVDW関係者は言う。さらに、インドはグローバル金融・経済危機から他国よりも早く回復している。

「インドの参加者の反応を見ていると、自動車製造センターとなっているチェンナイとプーネでシンポジウムを開催したのが正解だった」とVDWは述べている。

インドにおける工作機械売上高は2004年と2008年の期間に270%以上増加して12億ユーロを超過している。需要の大半は輸入によって満たされている。

ドイツは長年、日本に次いでインドの業界に生産技術を提供する最も重要なサプライヤーとなっている。

(VDW プレスリリース 2010年3月30日付)

◆中国：工作機械産業、国産化率が70%に

中国機床(工作機械)工具工業協会の呉柏林・常務副理事長は12日、同国の工作機械の国産化率が70%に上昇したことを明らかにした。産業構造調整の強化とNC工作機械、高級機比率の上昇と、低級機比率の低下によるものとしている。2009年の金属加工用工作機械の生産額は前年比7.6%増の153億ドルであった。呉常務副理事長によると、中国の工作機械産業は規模が大きいものの、実力は弱く、品質、技術、サービスでは世界的ハイレベル水準には程遠い。中国の経済建設に必要な高級NC工作機械は主に輸入に依存している。中高級NC工作機械に必要な数値制御システムとコア部品も主に輸入に頼っている。世界では中国の工作機械メーカー数は最も多いが、リーディングカンパニーは極めて少ない。中国工作機械産業にとって、産業と製品構造の調整、レベルアップが当面の急務となっている。

(新華社新華網ニュース 4月13日付)

◆中国：設備製造業第一四半期の景況感が改善

経済日報社中経産業景気指数研究センターと国

家統計局中国経済景気監測センターが共同で作成した「2010年第1四半期（1～3月）中経設備製造業景気指数」が20日公表され、指数は前の四半期より0.7ポイント増加の99.4ポイント（景気標準は100ポイント）となり、3つの四半期連続で上昇を実現、03年～08年の高い水準（03年上半期の水準）まで回復した。内需の好転、企業販売の大幅増と価格の小幅な反発が要因としている。
（新華社新華網ニュース 4月22日付）

◆中国：一般工作機械輸出が大幅増（遼寧省）

瀋陽税関の統計によると、2010年第1四半期（1～3月）、遼寧省の金属加工用工作機械の輸出台数は前年同期比55.9%増の7,422台、輸出金額は4.9%増の3,149万ドルだった。中国全土における工作機械の輸出台数は前年同期比18.5%増の147万台、輸出金額は前年同期比12.4%増の3億8,700万ドルとなった。遼寧省からの工作機械の主要な輸出先はアジアとアフリカで、アジアへの輸出が前年同期比58.5%増の4,331台、アフリカへの輸出が前年同期比85.4%増の2,228台となり、両地域を合わせて遼寧省の工作機械輸出の88.4%を占めた。輸出品は中低級機が多くを占め、遼寧省から輸出された工作機械では、ノコギリ盤や切断機が最も多く、前年同期比1.1倍増の5587台となり、工作機械輸出の75.3%を占めた。高級機の代表であるマシニングセンタとNC工作機械の輸出台数は前年同期比6.8%増の379台、輸出金額は前年同期比10.9%増の1,555万ドルだった。

（新華社新華網ニュース 4月26日付）

3. 工作機械関連企業動向

◆米国：Hardinge社、J&S社を買収

立て/横マシニングセンタ、CNC旋盤、研削盤、加工物保持装置を生産する米Hardinge Inc.社は、英Jones & Shipman (J&S)社の資産取得のため、Precision Technologies Group Ltd.社に300万ドルを支

払うことで合意した。

J&S社は、研削盤、超砥粒研削盤、マシニング装置のメーカーである。

「J&S社の資産取得は当社の戦略に合致するものであり、当社の研削盤ラインに価値ある製品と強力なJ&Sのブランドネームを加えるものである」とHardinge社のRichard Simons社長兼CEOは言う。「当社の拡大する欧州研削機器事業とともに、J&S製品は当社のアジア市場におけるプレゼンスの拡大を助けよう」

Hardinge社は2009年10月以降、ライバルメーカーであるブラジルのIndustrias Romi S.A.社からの9,200万ドルの買収攻勢を阻止している。

Hardinge社のJ&Sブランド買収は、Romi社がHardinge社の発行済み株式の公開買い付けを発表した数日後に合意されたことから、Hardinge社の経営戦略について憶測を呼んでいる。

（American Machinist 電子版 2010年4月1日付）

◆米国：Hardinge社、2009年第4四半期および通年の決算を発表

精密CNC旋盤、高性能マシニングセンタなどの国際メーカー大手、Hardinge Inc.社は2009年の第4四半期および通年の決算を発表した。

純売上高は2009年第4四半期が前年同期比26%減の5,660万ドル、通年が前年比38%減の2億1,410万ドルだった。受注高は第4四半期が前年同期比9%増の5,090万ドル、通年が前年比49%減の1億7,500万ドルだった。

2009年第4四半期の地域別売上高は、北米1,795万ドル（前年比25%減）、欧州2,065万ドル（41%減）、アジアその他1,802万ドル（4%増）、2009年通年では、北米6,433万ドル（前年比41%減）、欧州8,730万ドル（45%減）、アジアその他1,802万ドル（19%減）で、欧州市場の落ち込みが際立っている。

また、2009年第4四半期の純損失は830万ドルで前年同期の赤字2,570万ドルと比べて改善し、通年の純損失も3,330万ドルで2008年の赤字3,430万ド

ルから僅かに縮小した。

「世界工作機械需要の前例のない落ち込みのなかで、当社はキャッシュフローの確保、コスト削減、在庫管理の効率化、国際調達活動とサプライチェーン運営の簡素化に努め、グローバル規模の景気が回復した段階での業績拡大に備えている」とRichard・L・Simons社長兼CEOは語っている。

なお、同社取締役会は全員一致でブラジル工作機械大手、Industrias Romi社による2010年2月4日付Hardinge社買収提案を拒否している。

(Hardinge社プレスリリース 2010年2月18日付)

◆スイス：大幅減収、赤字幅拡大のMikron社2009年決算

世界全域の工作機械各社と同様に、Mikron Groupの2009年業績もグローバル不況で深刻な打撃を被った。

2009年売上高は前年比43.2%減の1億5,010万スイスフラン、うち工作機械・切削工具部門の売上高は前年比51.8%減の6,730万フラン、オートメーション部門が同33.2%減の8,320万フランだった。

2009年受注高も前年比44.5%減の1億2,970万フラン、うち工作機械は51.5%減の5,950万フラン、オートメーションは36.6%減の7,030万フランだった。

2008年に1,580万フランだった営業損失は2009年には3,280万フランに増加した。うち工作機械が2,480万フラン、オートメーションが300万フランの損失を計上した。当期損失は2008年1,340万フラン、2009年3,280万フランだった。

Mikron社の見通しでは2010年には景気が若干上向くものの、同社業績への寄与が期待できるのは同年下期になる。

なお、切削工具事業やサービス分野では2009年第4四半期に既に若干の需要回復の兆しが認められている。

(Mikron社プレスリリース 2010年3月15日付)

◆ドイツ：Chiron社、AMB2010向け出展を準備

ツットリンゲンに本拠を構える独工作機械メーカー、CHIRON-WERKE GmbH & Co.KG社も、グローバル不況のなか、創造力、独自性、連携、決断力、ビジョンがこれまで以上に要求される厳しい環境に適合するため、同業他社と同様に戦略目標を修正している。

「革新的で高度なソリューションを提供して、当社製品とサービスの競争力向上を図る」と同社の販売、製品、サービス担当のDirk Prust専務取締役は語っている。

さし当たって、CHIRON社はシュトゥットガルトで開催される「AMB2010」に、定評のあるFZ 12 5軸機の次世代機種FZ 15 5軸機械を出品する。高精密、高速、耐衝撃性、コスト優位が特長で、FZ 12機と同様に2軸ロータリー・テーブルを装備している。ターニング機能向けにトルクドライブ付フェイスプレート2面の組み込みも可能である。他の利点としては、X軸トラベルの増加や剛性、熱安定性の向上が挙げられる。

また、同社は大型部品の機械加工向けに、FZ 28の後継機種、BIG MILLを提供している。安定したフライス加工能力と極めて短い非生産時間が特長である。

(CHIRON社プレスリリース 2010年4月7日)

◆独工作機械メーカーのHermle、2009年は最収益9割減

独工作機械メーカーのBerthold Hermle（ゴスハイム）が3日発表した2009年通期決算（暫定値）はグループ売上高が1億2,700万ユーロとなり、前年比で54%減少した。経済不況による設備投資の冷え込みが打撃となった。受注高は9,990万ユーロで、前の年から58%減少した。営業利益は前年の6,660万ユーロから約800万ユーロに後退。最収益は88%減の約600万ユーロと大幅に縮小したが、黒字を確保した。

同社のヘルムレ社長は2010年の業績見通しにつ

いて、「自己資本比率は75%以上の高水準を保っており、資金調達には問題がない」としたうえで、工作機械への需要回復をにらみながら、開発済みの新製品を投入する方針を明らかにした。

不況による影響で人員整理を実施した企業が多い中、同社は2009年に18人を新規採用し、従業員数は817人に増えた。

(MaschinenMarkt 2010年3月3日付)

4. その他

◆ユーザー関連トピックス

現代自、チェコでギヤボックス生産倍増へ

韓国の現代自動車はチェコ工場で、ギヤボックスの生産を倍増する。チェコ各紙が2月24日付で伝えたところによると、同社は地方当局が実施した環境影響評価で好意的な評価を得て、生産拡大に向けた障害をクリア。2011年から、同工場におけるギヤボックスの生産を現在の年30万基から60万基に引き上げる。

チェコ工場は東部ノショビツェにある。同社はギヤボックスの生産拡大のため工場敷地内に第2生産棟を建設する計画だったが、交通量増加による騒音、排ガスを懸念する地元住民の一部が強く反対していた。環境影響評価で計画が認められたことにより、同社は近く、新工場棟の建設に着手。2011年から256人を新規雇用し、ギヤボックスを増産する。

同社は11年までに数十億コルナを投資してノショビツェ工場の自動車生産を年産30万台まで引き上げる計画を進めており、ギヤボックスの増産もこの計画の一環。同工場は08年秋に稼働したばかりで、09年は11万8,000台を生産した。ギヤボックスは、同工場の現代ブランド車に搭載されるほか、スロバキアの起亜工場にも供給される。

独フォルクスワーゲン傘下でチェコ自動車最大手のシュコダ自動車も、国内北部のムラダー・ボレスラウ工場でギヤボックスの生産を拡大する。今

年末までに15億コルナを投じ、従業員を270人増やし対応するとしており、ギヤボックス生産で自動車大手2社がしのぎを削ることになりそうだ。

(Press Release 2010年2月24日付)

VSMPO アビスマ、今年のチタン生産は10%拡大

世界最大のチタンメーカーであるロシアのVSMPO アビスマは、2010年の生産量を前年比で10%拡大する方針だ。ボエボジン最高経営責任者(CEO)が2月25日明らかにした。売上高は8億〜8億5,000万米ドルを見込んでいる。

VSMPO アビスマはボーイング、エアバス、ロシアの統一航空機製造会社(OAC)などにチタンを供給しているが、09年の生産量は世界的な不況により航空機メーカーが生産を縮小した影響で、前年比21%減の2万200トンに落ち込んだ。同社は製品供給先の多様化を目指しており、現在はカナダのボンバルディアが開発中の小型ジェット機「C-シリーズ」と、中国商用飛機有限責任公司の大型ジェット旅客機「C919」及びリージョナル型ジェット旅客機「ARJ-21」へのチタン製品供給でそれぞれ交渉を進めている。

ボエボジンCEOによると、同社は昨年末、総額7億米ドルに上る債務のうち約半分について返済期限を3年間延長した。残る短期債務については借り換えを進め、増資や社債の発行は行わない意向だ。(Bloomberg 2010年2月25日付)

ロシア政府、自動車産業支援に200億ドル投資

ロシア政府は4日、自動車産業の発展に向けた10カ年戦略を発表した。2020年までに約200億米ドルを投じ、外国車に押され不振に陥っている国産車メーカーを世界市場で通用するプレーヤーに成長するよう後押しする。

戦略には、政府が向こう10年で自動車産業に5,840億ルーブル(196億米ドル)を投じるほか、需要喚起策の実施、自動車メーカーに対する税金や保険制度での優遇措置、技術革新を推進するた

めの研究開発センターの設立などが盛り込まれている。フリステンコ産業相によると、20年までに公的・民間を合わせた自動車産業への総投資額は1兆2,000億～1兆8,000億ルーブル（403億～605億ドル）に達する見通しだ。

プーチン首相は、ロシアは世界の主要自動車メーカーの誘致に成功し、自動車産業の集積が進んでいると指摘する一方で、「それだけでは十分でない。我々の最終目標は、国内で部品から完成車まで一貫生産できる近代的な自動車産業を確立し、国産車メーカーの競争力を向上させることだ」と強調した。

ロシアの自動車市場は昨年、経済危機の影響で前年から49%も縮小した。今年1月の新車販売も前年同月比で37%減と厳しい状況が続いており、特にアフトワズなどの純国産車の販売が大きく減少している。

(Moscow Times 2010年3月4日付)

スイスのマクソンモーター、モータ生産をハンガリーに完全移管

スイスの駆動部品大手マクソンモーターは、ハンガリー子会社にモーターとローター（モーター回転子）の生産を完全移管する。4日付けの現地紙『ナビガズダシャーグ』が報じた。

マクソンモーターハンガリーは西部のヴェスプレム工場に11億フォリント（413万ユーロ）を投じて設備の更新を実施する。投資額のうち2億8,000万フォリントはハンガリー政府からの補助金を活用する。従業員は現在168人だが、生産の拡大に伴い増員する予定。

マクソンモーターハンガリーの2009年の売上高は9億300万フォリントで、前年から2.2%減少した。(BBJ 2010年3月4日付)

米ソーラータービンス、チェコに修理工場

米建機大手キャタピラー傘下で産業用ガスタービン、ガスコンプレッサの生産を手がけるソーラータービンスが、チェコに修理工場を建設する。

チェコ投資庁が4日、同社と仮契約に調印したと明らかにした。同社の修理工場は欧州、中東、アフリカ地域（EMEA）で唯一のものとなり、同地域のガスタービン修理を一手に引き受ける。投資額は明らかにされていない。

工場建設地は北西部ジャテツ（Zatec）の工業団地内。労働・社会政策省が8日発表した失業統計によると、北西部各県の失業率は約13%と全国平均の9.9%を上回っており、雇用情勢改善のため投資庁が熱心に進出企業を呼びかけていた。

ソーラーは工場を順次拡大し、2020年までに450人を雇用する計画。ガスタービン修理のほか、修理に必要な主要部品の改良なども行う。同社では、EMEA地域で同社製ガスタービンは数千台が稼働中であるとしており、稼働後3万時間で点検・修理が必要になるという。

(Profit.cz 2010年3月5日付)

独シーメンス、露鉄道メーカーと合併へ

独電機大手のシーメンスとロシア鉄道メーカーOJSC Sinaraが電気機関車製造の合併会社を近く、設立する予定だ。独『フランクフルター・アルゲマイネ（FAZ）』紙が8日付で報じ、シーメンスが追認した。同社はロシアでの生産に乗り出すことで、急成長中の現地市場の開拓を加速する。

両社は昨年5月に合併設立で基本合意しており、同計画を今週中にも欧州連合（EU）の欧州委員会に提出するもよう。FAZ紙によると、欧州委の審査は形式的なもので、新会社は今夏にも事業を開始する見通しという。出資比率はシーメンスが49%、Sinaraが51%。両社は1億5,000万～2億ユーロを投じてエカテリンブルク近郊の工場に二重連型の機関車を年100両製造し、ロシア国鉄（RZD）に納入する。

シーメンスは2008年12月、高速列車ICEの最新型車両「Velaro」8本をRZDから受注し、ロシアの鉄道車両市場に参入した。昨年も寝台車200本と、冬季オリンピック開催予定地ソチのローカル線向

け車両54本を受注している。

RDZは鉄道網の近代化・拡張に向け2030年までに計約4,000億ユーロを投資する計画で、機関車については2万両の調達を予定している。

(Frankfurter Allgemeine Zeitung 2010年3月8日付)

伊自動車部品のブレンボ、ポーランドで生産能力拡大

伊自動車部品大手ブレンボは12日、ポーランド南部ドンブロバ・ゴルニチャにあるブレーキディスク工場に8,200万ユーロを投資し、2014年までに生産能力を倍増させると発表した。欧州市場でブレーキディスクの需要が拡大していることに対応する。

投資資金8,200万ユーロのうち6,200万ユーロは鋳造設備に、残り2,000万ユーロはマシニングセンタに投入し、それぞれ生産能力を拡大する。なお、今回の投資に当たり、欧州連合(EU)から1,350万ユーロの補助金の交付を受けることが決まっている。

ブレンボは1995年に南部のチェンストホバにブレーキシステムの生産拠点を開設、03年にはドンブロバ・ゴルニチャ工場の操業を開始した。2008年の売上高はチェンストホバ工場が1億300万ユーロ、ドンブロバ・ゴルニチャ工場が1億900万ユーロだった。ブレンボ・ポーランドの顧客にはアウディ、BMW、ダイムラー、フィアット、フォード、ランドローバー、PSA、ボルボ、イベコ、シュミット・カーゴブルが名を連ねる。

(Press Release 2010年3月12日付)

VWのKarmann事業買収、対象拡大の方向

自動車大手のVolkswagen(ヴォルフスブルク)が現在売りに出されている自動車部品メーカーKarmannの技術開発部門と工作機械部門の買収に向け交渉中だ。地方紙『ノイエ・オスナブリュッカー・ツァイツング』が報じ、VWの広報担当者とKarmannの管財人が追認した。VWはKarmannのオスナブリュック工場を昨年買収しており、今回の交渉が成立すれば計3部門を取得することになる。

同紙によると、VWはKarmannの技術開発部門を

買収、技術者400人のうち300人を継続雇用する方向。工作機械部門についてはKarmannから譲り受けたオスナブリュック工場に統合するという。同工場では来年からVW「Golf」のカブリオレを生産する予定だ。

VWの広報担当者は「協力の在り方や範囲について集中的に協議している」と述べるにとどまり、具体的な交渉内容を明らかにしていない。一方、Karmannの管財人は当該部門の従業員の雇用を可能な限り維持するとの立場を示した。

Karmannは昨年倒産した。ルーフシステム部門についてはカナダ・オーストリア系の自動車部品大手Magnaの子会社CTSが買収する計画で、現在、独連邦カルテル庁が審査している。

(Handelsblatt 2010年3月15日付)

インド：パナソニック、インドでの生産能力とインフラを強化

パナソニックは4月15日、インドでの販売額を2012年までに500億ルピーに倍増させることを目標に、企業インフラと生産能力、マーケティング活動を強化すると発表した。同日付PTI通信が報じている。同社は2012年までにインドに第2工場を建設し、エアコンを手始めにインド向けのさまざまな製品を生産する計画。パナソニック・インドのアルジュン・バラクリシュナン取締役(営業・計画)は、「目標は12年までに売上を500億ルピーまで倍増させること。そのため今後2～3年の間に、企業インフラと生産設備を拡充する」とし、「パナソニックは戦略を大幅にシフトし、インドの地域性に即した製品の生産に向けて方向転換する」と明言した。

(インドビジネスセンター 4月16日付)

インド：トリベニ発電用蒸気タービン生産でGEと合併

トリベニ・エンジニアリング&インダストリーズは4月15日、米ゼネラル・エレクトリック(GE)のエネルギー産業向け機器部門であるGEオイル&

ガスと提携して、合弁企業「GEトリベニ」を設立することで合意したと発表した。同合弁はインド国内で発電用蒸気タービンの設計と生産を行う。同日付でPTI通信が報じている。合弁事業契約はGEパシフィック・モーリシャスとの間で結ばれ、合弁の出資比率や役員数は対等とする。GEトリベニは、発電容量3万～10万キロワット級の蒸気タービンの生産をトリベニのバンガロール（ベンガルール）工場で行い、国内および海外の市場に供給する。生産および研究・開発にあたってはGEから全面的に技術供与を受ける。

（インドビジネスセンター 4月19日付）

インド:自動車部品のGSオート、ジャムシェドプルに新工場建設

パンジャブ州ルディアナに拠点を置く自動車部品メーカーのGSオート・インターナショナルは、ジャルカント州ジャムシェドプルに3億ルピーを

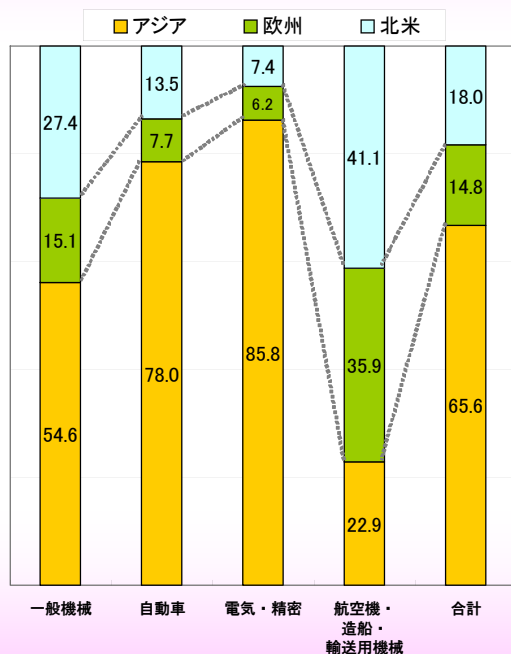
投じて新工場を建設する計画である。完成は今年12月の予定。ニーラジ・トゥリ CFO（最高財務責任者）の話として、PTI通信が4月6日付で報じた。GSオート・インターナショナルは、鍛造品、機械加工品、サスペンション・キット、大型高速トレーラー用車軸などを製造する地場系の自動車部品メーカーで、主な供給先はマヒンドラ&マヒンドラやアショク・レイランド、VEコマーシャル・ビークルズなどの商用車メーカーが中心である。しかし、今回建設するジャムシェドプル工場では主に乗用車用部品を製造する計画。乗用車用部品の受注は主力の商用車用を上回る勢いで伸びていることから、乗用車用部品のために設備投資することを決めたという。すでに乗用車用部品の新規受注に向けた交渉が、自動車メーカー数社との間で進んでいる模様。

（インドビジネスセンター 4月7日付）

5. 日工会外需状況(3月)

3月分の外需

主要業種別に見た主要3極の状況



出所: 日本工作機械工業会

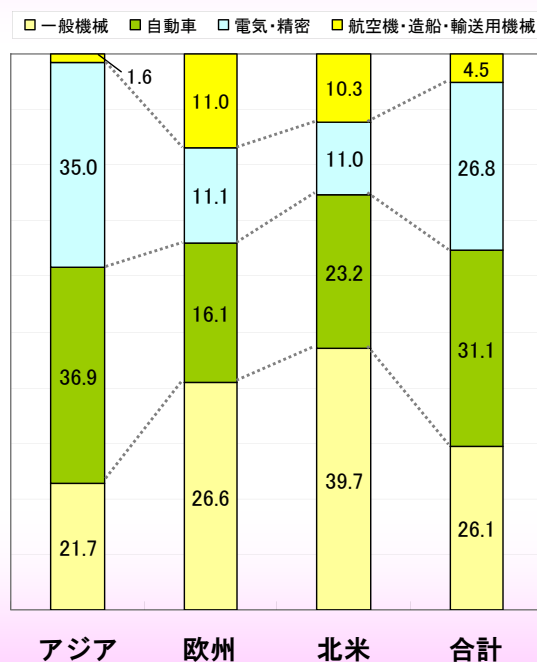
○自動車におけるアジアの割合は8割弱を占め、さらに電気・精密ではその割合は9割弱にもなっている。

○一方、航空機・造船・輸送用機械は欧州・北米で主として航空機分野を中心に受注が見られ、8割弱のシェアを占めている。

○一般機械は、アジアが半分以上を占めている。

3月分の外需

主要3極別に見た主要業種の状況



出所: 日本工作機械工業会

○アジアでは、自動車、電気・精密が7割強を占めている。
一方、航空機・造船・輸送用機械は他業種に比べ、少ないウェイトとなっている。

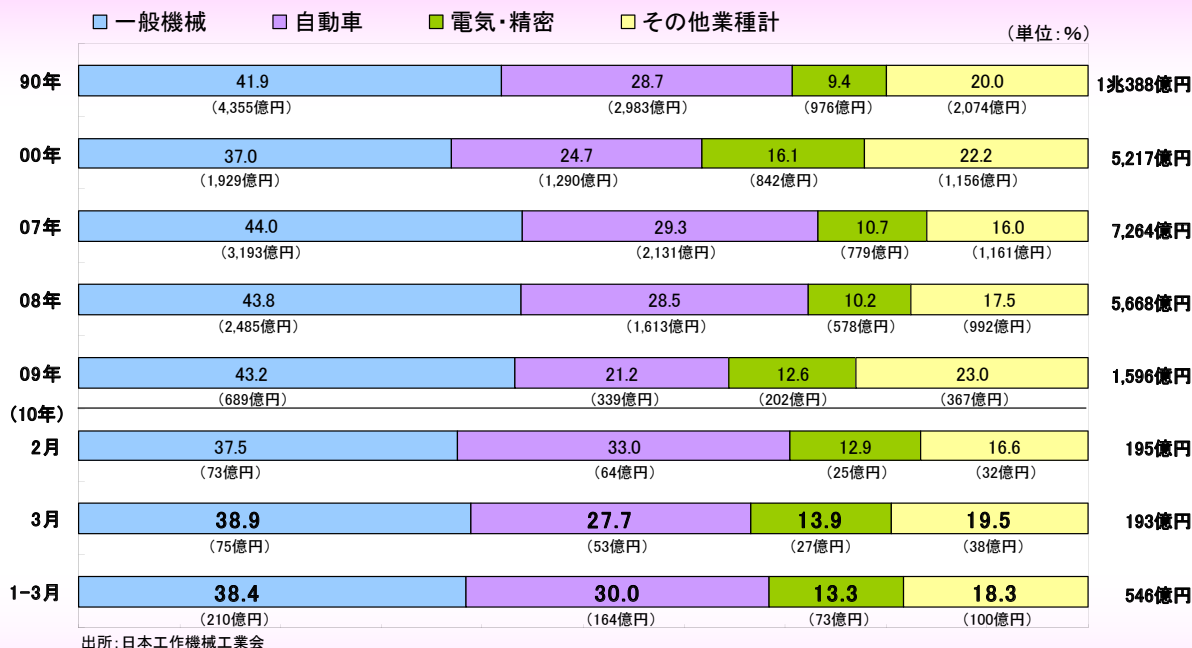
○欧州は、航空機・造船・輸送用機械の割合が比較的多く、他方自動車、電気・精密の割合は低い。

○北米は、他地域に比べ、業種的な偏りが比較的少ない。

ウズAMT専務理事コメント(2月分)

受注は、最も落ち込んだ2009年から緩やかではあるが回復を示し、1-2月計は前年同期比22%の増加となった。アメリカ経済の再建を行わなければならないこの時に、銀行がより積極的に融資を行う事に期待したい。

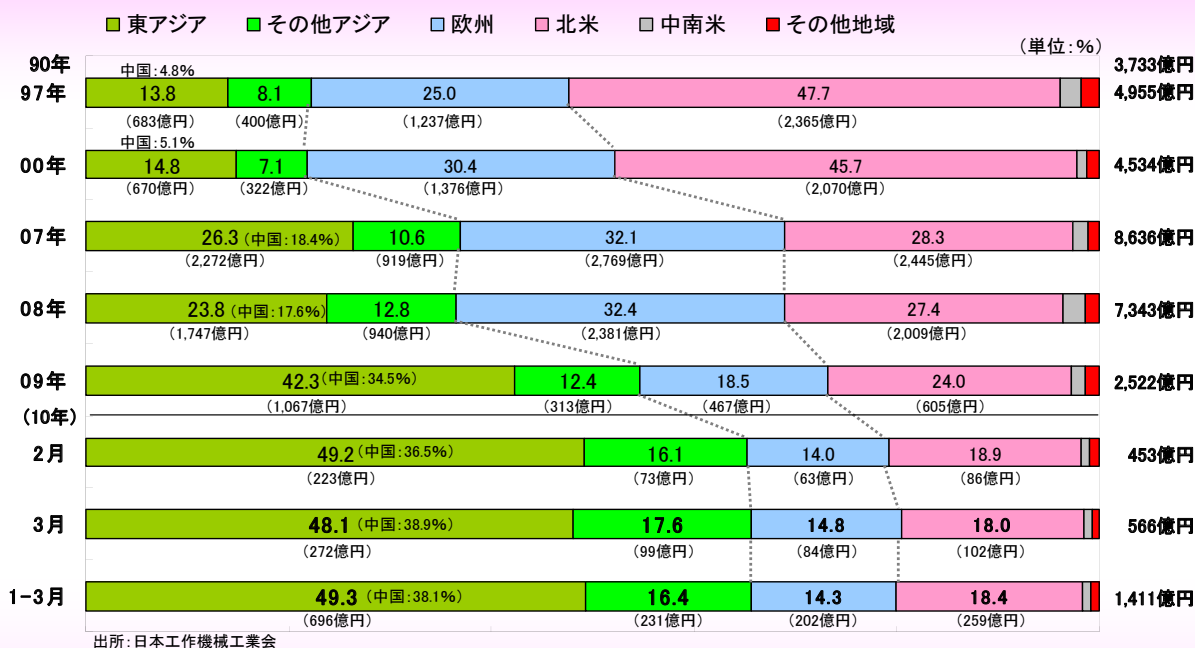
受注内需 主要業種構成比の推移



3月は、2月に比べ一般機械(+1.4Pt)、電気・精密(+1.0Pt)が増加した一方、自動車(△5.3Pt)が減少を示した。

1-3月累計を09年と比較すると、一般機械が少ないものの、自動車の割合が大きくなっている。

受注外需 地域別構成比の推移



3月は、2月に比べ変化の幅は小さく、基本的に1月の状況から大きな変化は見られていない。

1-3月累計を09年と比較すると、アジアの割合が09年よりも拡大している状況が目立っている。